

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2013年2月7日

[テーマ] 中小企業の商機拡大を

新たな政権の経済政策への期待などから、日経平均株価の終値が約2年9か月ぶりに1万1000円台を付けるなど株式市場は活況を呈しており、投資家や株式発行企業のマインド改善にもつながっている。新規上場（IPO）を目指している会社にとっても、フォローの風になるだろう。

新規上場は、かつては成長企業にとっての象徴的なイベントと言われた時代があったが、その後の市場改革もあって、成長途上の小規模なベンチャー企業も新規上場が可能になった。新規上場を行う企業には、投資家への情報公開や説明責任などが求められる一方で、株式発行による機動的な資金調達が可能になるほか、知名度・信用度が向上するなどメリットも多い。

新規上場の企業数は、近年、増加傾向にあり、とくに東京以外の地方企業が増えている。新規上場を狙う成長途上の企業が地元での生産・販売や雇用を増やせば、地域の活性化につながる。県内では、残念ながら、2007年の免疫生物研究所とコシダカホールディングスを最後に、約5年間新規上場の実績はない。

新規上場企業数

	2010年	2011年	2012年
合計	22	37	48
うち東京以外 (群馬県)	7 (0)	10 (0)	21 (0)

(資料) 会社四季報、日経会社情報、各社ウェブサイト

県内企業は、全国と同様、ほとんどが中小企業であり、従業員9人以下の事業所が全体の8割を占めている。政府は、6月をめどに成長戦略を策定する方針だが、人材や資金など経営資源に制約のある中小企業にとって、ビジネスチャンスにつながる規制緩和や制度改革が望まれる。

従業者規模別事業所数

() は合計に占める割合・%

合計	1～9人	10～19人	20人以上	派遣従業者のみ
101,841	81,909 (80.4)	10,869 (10.7)	8,919 (8.8)	144 (0.1)

(出所) 群馬県「平成21年経済センサス—基礎調査(確報)結果の概要」

新規分野に積極的に取り組んでいる中小企業への側面支援も不可欠だ。県は、新たな事業展開などを行う中小企業・創業者からビジネスプランを募集し、新規性・独創性に富み実現可能性の高いものを「優秀ビジネスプラン」として発表している。地元金融機関は、取引先などを一堂に会した商談会を開催し、ビジネスマッチングに取り組みつつある。このように、創意工夫を凝らす企業に対して、行政、金融機関などの関係者がビジネス拡大のきっかけを様々なかたちで提供することも、企業の成長や産業の育成に有用だろう。

上毛かるたが編纂された1947年当時の県内産業は絹産業が中心だったが、その後主力産業が変遷し、今日では輸送用機械がリード役となっている。上毛かるたに詠まれる先人達の未来への希望を継承していくためにも、県内企業には、外部環境にフォローの風が吹いている好機を活かして、強みのある分野の拡大や新たな事業分野の開拓に取り組むなど、積極的なチャレンジを期待したい。

〔 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 〕